

## 企業関係者と弁理士の知財研究会

### 第19回(2022年度-3)・実施報告書

令和4年9月22日

樋口正樹、岡田健太郎、栗田由貴子  
藪田豊、後藤仁志、大野玲恵

令和4年9月22日(木)に行われた、企業関係者と弁理士の知財研究会・第19回について、実施報告をいたします。

#### 実施したクラス

当初の予定どおり、午後3時半～5時のクラスと午後5時半～7時のクラスの2クラスを実施した。内容は同じである。

#### 参加人数

担当の神奈川委員を除き、3時半クラス3名、5時半クラス2名。

#### 参加者の内訳

##### ① 3時半クラス

	企業関係者	特許事務所	法律事務所	合計
会場受講	0	0	0	0
オンライン受講	2	1	0	3
合計:	2	1	0	3

(その他内訳)

・神奈川委員会委員5名

##### ② 5時半クラス

	企業関係者	特許事務所	法律事務所	合計
会場受講	1	0	0	1
オンライン受講	0	1	0	1
合計:	1	1	0	2

(その他内訳)

神奈川委員会委員6名

## 司会進行

岡田健太郎、後藤仁志

## テーマ

間接侵害

## 使用資料

- ・「非専用品型間接侵害についての考察」(服部 誠、大西 ひとみ)  
『特許研究』No.67 2019年3月号 p.23-p.33
- ・裁判例1「一太郎事件」平成17年(ネ)第10040号 特許権侵害差止請求控訴事件
- ・裁判例2「プリント基板用治具事件」平成14年(ワ)第6035号 特許権侵害差止等請求事件

## 内容

最初に、間接侵害の条文である特許法第101条のうち、本日の論文で触れられている第2号と第5号について簡単に説明し、本日の論文の概要および論点を説明した。その後、不可欠性要件と差止命令について、ケーススタディ(いろいろな類型を想定したケースを準備)を用いて検討・議論した。

基本的には同一の内容であるが、各回において以下の点を特に検討した。

### ① 3時半クラス

- ・不可欠性要件のケーススタディでは、ケース1、ケース2、ケース3、ケース5を検討した。特に、ケース3、ケース5では意見が分かれ、活発な議論がなされた。
- ・差止命令のケーススタディでは、ケース(i)、ケース(ii)、ケース(iii)を検討し、いろいろな意見が出された。

### ② 5時半クラス

- ・不可欠性要件のケーススタディでは、ケース1、ケース2、ケース3、ケース6を検討した。特に、ケース2、ケース3、ケース6では意見が分かれ、活発な議論がなされた。
- ・差止命令のケーススタディでは、ケース(i)、ケース(ii)、ケース(iii)を検討し、いろいろな意見が出された。

## 担当者コメント

今回は、3時半クラス、5時半クラスともに、オンライン受講または会場受講にて参加いただいた。新規の参加者もいらっしまった。

3時半クラス、5時半クラスともに、非常に活発な議論がなされた。専門分野も様々であり、企業知財、特許事務所、法律事務所と多様なバックグラウンドを有する方々が議論することにより、主に不可欠性要件と差し止め命令について、多角的な視点で議論を行うことができた。

#### **今後の予定**

第 20 回（2022 年度－4）令和 4 年 11 月 24 日(木)予定。テーマは「国境をまたぐ侵害行為」

第 21 回（2022 年度－5）令和 5 年 1 月 26 日(木)予定。テーマは「均等論第 5 要件（意識的除外）」

第 22 回（2022 年度－6）令和 5 年 3 月 10 日(金)予定。テーマは未定。

以上